

式 辞

本日、ここに、協同組合東京問屋連盟創立70周年記念式典を挙げるに当たり、ひと言ご挨拶を申し上げます。

まず、本式典が、かくも盛大に開催できますことは、関係諸官庁のご指導、組合員の皆様、さらに関係各位のご支援、ご協力の賜物と、ここに深く感謝申し上げます。

本日は、公務極めてご多用のところ、矢田中央区長をはじめ、多数のご来賓のご臨席をたまり、錦上華をそえていただきまして、心よりお礼申し上げます。

さて、当連盟は戦後まもない昭和23年1月に設立され、以来、70年の歳月が経過し、この間、組合員の経済的地位の向上に全力をあげて参りました。

この70年、日本経済は、戦後の復興期から高度成長期を経て、オイルショックを乗り越えましたが、バブル経済崩壊後の長期不況を経験しました。世界で経済のグローバル化が進み中国など新興国が勃興、国内では雇用システムは崩れ、さらに少子高齢化、事業継続など解決すべき問題に直面し、依然厳しい状況が続いております。

こうした中で、当連盟は組合員の活性化に取り組み、委員会を中心とした共同事業を通じてその発展を目指し、諸事業を展開して参りました。この使命は今後も変わるものではありません。

しかしながら、現在のように激変する経営環境の中においては、当連盟に求められる役割は多様化、複雑化しております。当連盟が中小企業経営にとって引き続き「重要な存在」との確固たる認識のもとに、設立の原点に立ち返り、従来にも増してきめ細かな事業を展開し、組合員からの要望にこたえ、その責任を果たして参りたいと思う所存です。

昨年5月の総会より第10代目の理事長という重責を背負い、未だ未だ手探りの運営ですが、御支援頂く皆様方に助けられての日々であります。永年に渡り中小企業に携わり、その業界活動としての連盟活動の実行部隊から作戦中枢に入れば入る程色々の苦難に直面致します。

自分自身の企業経営と同じ様に「経営資源」に十分とは恵まれない組合活動ではありますが、そんな時こそ自己の経営にならい「企業は人なり」、そして究極は「企業は社長なり」の率先垂範たるTOPの重要性を痛感致しております。

これからの難しい時代、何があっても不思議ではない時代ですが、問屋街のリーダーとしての責任を忘れず、日々の研さんに励んでいく所存であります。

今後とも皆様には、引き続きご指導、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

終わりに、組合員のご隆盛と本日ご参集いただきました皆様のご健勝を心より祈念申し上げます、式辞とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

平成30年2月15日

協同組合 東京問屋連盟
理事長 相 川 浩